



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と  
ひ  
と  
ツムぐ学生

第67号

2017年8月27日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.46

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、  
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

## 大学1年生 初ボラの学生の「教え方」



写真は、6年生の男子J君と、愛知大学1年のSPさんです。J君は、つまずきがあると、なかなか上手く学習に取り組むことができない子です。多くの先生方が、いつも気にかけて指導しています。

事前に中村先生からSPさんに「J君の場合は、横について指導してあげると上手くいくよ」というアドバイスがありました。

SPさん。全力で関わってくれていました。私たちが知っているJ君は、算数の問題に集中

できる時間はそれほど長くはありません。それが、20分、30分とずっと集中してやっているのです。それは、SPさんの「話術」と「関わり」がすばらしかったからです。

はげましたり、いなしたり、別の質問をしたりと、押したり引いたり、のしなやかな対応なのです。

「すごいなあ…。教員でもなかなかできないよ、この根気強い指導。」それを、大学1年生のSPさんがやっているのです。一緒に見ていたシニアSPの森岡さんも、「これ、すごい。大学1年生ですよ」とびっくりしていました。

25という概念をJ君に伝えるのに、SPさんが考えたこと…。それは「プールの長さ」でした。それを使いました。25が4つあるんだよ。プールで、泳いで、またターンしてもう一回ターンして。何メートルになる？」数字の概念をイメージできやすいように、親しみのあるプールの長さに置き換えて説明していたのです。圧巻の指導でした。

J君は、何度も何度も同じ説明を聞いていました。はじめは気むずかしい表情をしていましたが、どんどん晴れやかになっていきました。問題が分かるようになってきたのです。このときのJ君の心の喜びは、すごく大きいものだったことでしょう。そして自信をつけます。‘わく算’のすばらしいところは、算数の理解を深めることもそうなのですが、「子どもに自信をつけさせてくれる」点です。そこが、すごいのです。今まで、自信をつけ、最高の笑みを見せる子どもを何人も見てきました。今回、それを支えてくれた一人が、大学1年生のSPさんでした。